

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field (事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日) and Value (0172000259, 三愛商事株式会社, グループホーム里の家 すずらん, 北海道小樽市桂岡11-13, 平成 28 年 12 月 1 日 / 平成29年2月7日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし、信じ合える希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したものとなるよう配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事、地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた昔の自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、入居者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆっくりと関わりをもち、落ち着いた環境でコミュニケーションを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: Field (基本情報リンク先URL) and Value (http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action kouhyou detail 2016 022 kihon=true&JigyosyoCd=0172000259-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field (評価機関名, 所在地, 訪問調査日) and Value (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット, 札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401, 平成29年1月16日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、バス停から近く山麓の中腹にある閑静な住宅地に立地している。法人にとって最初に開設した2階建て3ユニットの建物であり、16年が経過している。町内会には、「里の家」担当者がいるなど、地域から日常的に温かい支援を得ている。特に、近くの小学校からは入学式、卒業式、運動会などの行事に招待され、「里の家」専用の席が用意されている。家族も協力的で、風呂上がりに利用者に保湿ローションを塗ったり、外出や事業所行事等で支援を得ている。利用者の誕生日はリクエストメニューにし、さらに一年の集大成として日常生活の中で撮った写真をアルバムにして贈呈している。法人のバックアップ体制(研修、災害時、週2回の運転職員の派遣、ホーム作り作成協力、系列事業所の食事コンテストによる活動費補助金等)は、職員にとって利用者より関わられるなど良質なケアに繋がっている。職員は、利用者の笑顔が見たいから笑顔で寄り添うなど、ケアの本質を十分に理解している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Criteria (O/△/×), and Results. Rows 56-62 show various service outcomes and their evaluation status.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に全員で理念の唱和をしている。地域密着サービスの意義について内部研修で考える機会を持ち、地域のお祭りや小学校の行事に参加し、実践につなげている。	職員は、4項目からなる法人理念を共有し、さらに、それぞれの職員やユニットは理念を具体化した年間目標を掲げ実践に努めている。事業所内に理念を掲示し、毎朝行う理念の唱和や内部研修等で理念の意識付けに繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会のお祭りや文化祭、小学校の各種行事に積極的に参加している。フラダンスやハーモニカ演奏等のボランティアが定期的に訪問し、顔なじみの関係になっている。	地域とは、祭りなど相互の行事で交流がある。特に近くの小学校とは入学式や運動会、体験学習の受け入れ等で馴染みの関係にある。地域の日本舞踊など各ボランティアの定期的な訪問もあり、利用者の豊かな生活の一助となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にご家族様、町内会長、消防、地域包括の方々が参加し、ホームの生活や支援について報告している。実習生(聾学校、実践者研修)を受け入れ、認知症の理解に努めている。小学生とも交流し、理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事やサービスについて報告し、どのような取り組みを行っているか知って頂き、見守り協力、災害時の協力の支援につなげている。参加者から質問や意見を頂く事で内部からは見えない改善点を見つけ、目標設定し、また、結果を報告している。	会議は、町内会、民生委員、包括支援センター職員、家族をメインに、さらに市担当職員、後見人、消防署員、小学校PTA、社会福祉協議会、利用者の参加を得て、2か月毎に開催している。現況報告後に災害対策やヒヤリハット等で意見や情報交換があり運営に生かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	保護課の方とも受診等、密に連絡を取っている。関係各所に里の家便りをお届けし、取り組みをお伝えしている。認定更新の際に現在のホームや入居者様の現状を伝え、協力関係を築ける様、取り組んでいる。	行政には主にホーム長が報告や申請書類、ホーム便りを持参し、担当職員から助言や指導を受けている。ホーム長は、包括支援センターと協働で小学校でのキッズ認知症サポーター養成講座を計画している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を行い、意識を高めている。又、日頃からユニット内で話し合いの場をもっている。防犯上施錠はしているが、施錠は感じない様に取り組んでいる。歩行困難により居室に布団を敷いておられる方もいるが、自由に動ける感覚でいられる様に努めている。	身体拘束廃止に向けてマニュアルを整備し、外部、法人、内部研修等で具体的行為やその弊害を学んでいる。職員間でも常に話し合い拘束のないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士で注意し合える関係を築いており、小さな身体変化も見逃さないようにしている。内部研修にて虐待について学んでいる。又、グレーゾーンになるのではないかと思われる事は気付き次第スタッフ同士で話し合い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフは講習を受けており、家族様に説明できるようにしている。しかし、まだ十分な知識量には及んでおらず、さらなる研修を受けていく。現在は該当の入居者様があり、折に触れ、管理者や保佐人より、お話を伺い、入居者様の支援につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する前の面談を含め、十分に説明の時間を取り、不安や疑問にお答えしている。 改定の際は書面での説明を郵送し、電話にて細かな説明をさせて頂き、ご理解ご納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	小さな訴えや不満等も訴えやすい環境作りをしている。苦情窓口を設置しており、ご意見があった場合には本社に報告。迅速に誠意を持って対応できるようにしている。出された意見はスタッフで話し合い、意見を反映するよう努めている。	毎月のホーム便りや家族来訪時、電話で利用者の日常を伝えている。利用者や家族から出された意見や要望は対応記録簿に記載し、事業所のみならず、法人全体の課題として捉え迅速に解決策を協議している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っているユニット会議・合同会議等で直接会社で意見を述べる機会がある。 またスタッフのお花見、忘年会には本社職員も参加し、職員の提案を聞く機会を設け、一緒に話し合いながら調整を図っている。	法人職員は都度事業所を訪れ、職員とコミュニケーションをとっている。ホーム長は、日常業務や会議、個人面談等で職員の意見を傾聴しており、要望であるエレベーターの設置が実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望や研修が自由に出来る様に整備されている。 勤務時間中の気分転換できる休憩室を確保した。日頃からスタッフの話を聴き、ストレス軽減に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修のお誘いは沢山あり、参加した職員は内容を報告する義務がある。月に一度、本社職員による内部研修、毎月のケース検討や自己評価に関する研修を行っている。GH協会の全国大会にも多くのスタッフが参加し、学びの機会を得た。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修の受け入れを行っている。又、地域の同業者との親睦会にも参加し、ネットワーク作りをしている。小樽市内のGHの相互訪問を実施している。その他、随時見学の受け入れを行っている。地域の主催する研修会にも参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者や計画作成担当者が面談を行ない、移行がスムーズに行える様話し合っている。入居前後にゆっくり寄り添う時間を持ち、ご本人様のお話や不安について伺っている。ご家族から、ご本人様の要望を伺う機会も設けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者や計画作成担当者が面談を時間を掛けて行ない、移行がスムーズに行える様話し合っている。ご家族の希望等も伺い、ホームでの生活が円滑に継続出来る様に努めている。ご家族と入居者様の関係が良好に継続できる様、協力している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者や計画作成担当者が面談を行ない、移行がスムーズに行える様話し合っている。ご家族様にご理解を頂き、ゆっくり時間をかけて慣れて頂いている。医療やリハビリ等迅速に対応出来る様にしている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に仕事をしたり、行事等を楽しんだり、談笑する時間を作っている。 又、入居者様に生活の知恵を伺い、一緒に実践する場を設けている。入居者様がスタッフを励ましてくださる場面も見られている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と協力してご本人様を支える為に職員が出来る事をさせて頂く、という考え方でご家族様と話し合っている。日頃の様子を伝え、電話等で関係が続くよう支援している。ご家族様が行事に参加され、入居者様の介助(車椅子、食事)をして笑顔する姿が見られている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へ行ったり、友人と会ったり希望に応じる様にしている。友人に連絡したい時はご家族様の許可を得て、連絡して頂いている。 昔から利用している喫茶店を利用したり、昔なじみの場所へのドライブ等も行っている。	職員は、家族や友人など利用者にとって大切な人との繋がりを尊重し、関わり合えるよう支援している。生活歴や会話の中で把握した懐かしい場所へも、可能な限り利用者と訪れている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲よし同士でお話や仕事を空間は確保されている。食事やおやつ時間にスタッフが調整役となり、入居者様同士うまくお話しできる様支援している。入居者様の関係について情報を共有し、変化する感情を注意深く見守っている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様が里の家祭りにも参加され退居後のお話を伺い、相談を受ける事もあり、継続して運営推進会議に参加されるご家族様もおられる。退居後は入院のケースが多いが、アセスメントの提供と共に情報交換をしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様やご家族様の言葉や行動・表情等、職員間で常に情報交換し、本人本位に努めている。意思疎通の難しい入居者様もできる限り表情や行動から思いを汲み取り、支援につなげている。	職員は、利用者との関わりの中で得た言葉や表情、職種などから思いや意向を察するよう努めている。新しく得られた情報も職員は共有し、利用者が安心して暮らせる支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らしをご本人様やご家族様が気軽に話せる人間関係を作り、沢山の情報を頂くようにしている。入居者様の過去を知る事はご本人様のより良い支援につながる事をご家族様に理解頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守りを大切にし、一日の生活のリズムや身体状況等を把握する事に力を入れている。さらに、新しい事にも挑戦して頂き、有する力の最大値を見極める様にしている。できる事が継続できる様、支援していく。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族様の意向を介護計画に取り入れる為、ご家族様と一緒にプランを考える機会を持ち、職員が代弁者となって入居者様が「何をしたいのか」を考えプランに活かしている。「今迄通り」にも少しずつの変化がある事に注目している。主治医の意見も参考にしている。	介護計画の更新時には、利用者や家族から得た生活への要望を集約し、主治医の意見も踏まえ職員全員の意見や提案を反映して新たな計画を作成している。介護経過記録で計画の実践を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日一人一人に対して目標を設定して、計画が実践されているか記録している。入居者様との会話や気づき、疑問に感じたこと等、記録し、プランの見直しをしている。出勤時に申し送りノートや業務日誌に目を通し、情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様や入居者様のニーズ(主に身体の変化)に対応している。本人様希望の買い物等の個人対応にも柔軟に取り組んでいる。経済的負担を減らすための提案も随時行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練等に地域や消防の協働を頂いている。日舞、ハーモニカ、フラダンス等地域のボランティアの協力で心身共に楽しんでいる。町内会、お祭り等のお手伝いをして下さったり、災害時の連絡網も作って下さっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療の他に家族様や本人の希望で受診を行っている。提携医院とは24時間電話対応出来、必要に応じて看護師が来設している。受診記録やカルテを活用し、情報の周知に努めている。	殆どの利用者は、協力医による週1回の訪問診療を受けている。馴染みのかかりつけ医や他科の受診支援も行い、受診記録は関係者と共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の看護職員と随時連絡可能となっており、適切な受診や看護につなげている。訪問看護を受け、健康管理や、主治医の指示の基、適切な看護を受けると共に、状況報告し、適時リハビリ等のアドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様同行で医師との面談の機会を持ち、意向を伝えている。入院時は面会にも訪れて、その都度、看護師やご家族様より情報を得て早期に退院出来る様努めている。病院は早く退院して通院で対応する等考慮している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアの経験があり、対応する準備は出来ている事はご本人・ご家族様に伝えるが、最終的にはご本人・ご家族様・主治医との話し合いで決める事である為、その決定に従い全面的に支援する心構えを確認し合っている。訪問看護ステーションの協力も得られている。	これまで多くの看取り支援を行っている。重度化（ターミナルケア）に関する指針と、重度化、看取りに関する確認事項は、契約時の書類に記載し、説明を経て同意を得ている。職員は、知識と技術の習得に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、応急手当等の訓練を定期的に行っている。転倒事故やヒヤリハットが起こった際、応急手当や初期対応について話し合い、各自シミュレーションしている。 緊急時マニュアルを整備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署参加の消防訓練を行い、指導して頂いている。町内会では災害時の緊急連絡網があり、協力体制も整えている。 消火器や避難経路の確保に努め、非常食や備品を準備、点検している。	年3回、地域参加の下避難訓練を行い、2回は消防署や防災コンサルタントの指導を受けている。町内会や系列事業所との協力体制は得られている。災害備蓄品も随時用意をしている。	周辺は山や川があることから、大雨、断水、停電、土砂崩れを含む自然災害への実践的訓練を検討しているので、その取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄支援等、さりげない支援を徹底している。プライバシーや人格を尊重した対応に心がけ、職員同士が注意し合い実践している。研修も行い、初心に戻れる様になっている。	名前を呼ぶ時は「さん」付けとし、排泄や入浴、受診時は、羞恥心にも配慮した対応を心掛けている。職員間に於いても、不適切なケアにならないように注意し合える関係にある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の全ての場面で選択や決定を出来る様支援している。意見を押し付ける様な事は職員は勿論、入居者様にもしない様に見守っている。思いを表現しづらい入居者様は表情に気を配り、思いを汲む様に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ都合ではなく、利用者様の都合で動くことを徹底している。入居者様も自由に生活する事が当たり前と思っておられる。 起床時間や就寝時間等も希望に添って生活して頂いているが、夜間の入浴等課題はある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	プライドに配慮しながら整容や着替え等の支援を行っている。馴染みの訪問理美容院で毎月希望に合わせたカットや毛染め、パーマをしている。又、衣類購入も希望に添ってされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューや買い物等、協力して頂いている。一部に限られているが、食器拭きも手伝って頂いている。歩行の安定されている入居者様は下膳もされる。ホーム敷地にある葡萄の収穫を行い果を拾い、すぐに食卓に並べている。	ユニット毎に利用者の食欲や栄養バランスに配慮した献立を立て、利用者と一緒に食事作りを行い食卓を囲んでいる。七草粥などの行事食や弁当持参での外出、外食や誕生日はリクエストメニューにするなど食の楽しみに繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量に個人差がある為、個別の対応をしている。食事の摂取量が減り、ご家族様の希望でエンシュア服用される方がおられる。声掛けや、摂取しやすい食事形態を行うなど工夫をしている。刻み食等、入居者様に合わせた食事提供をする。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様の能力に応じて声掛けや支援を行っている。変化があった場合、歯科医の往診を受けている。定期的な訪問診療で口腔の変化にも気を付けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	表情や排泄パターンを読み取って誘導し、自立に向けた支援を行っている。自力でトイレへ行かれる入居者様はさりげなく下着交換をして頂いている。オムツや布パンツの見直しも日常的に行っており、入居者様にあった物をご使用頂き、自立支援につなげている。	職員は、排泄チェック表を共有し、尊厳に配慮した見守りや声かけ、誘導を行い、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。排泄用品の使用は職員間で協議をし、必要最低限としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘により落ち着かなくなる事やなぜ便秘になるのか個別に考え、入居者様に合わせた対応をしている。食事と水分補給の他、毎日体操をしたり、ドライブ等行っている。主治医との連携を密にし、下剤の調整も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人様の希望やタイミングを考慮して行っている。体調を見ながら希望に添った入浴やシャワー浴をできるようにしている。入浴が億劫と感じる入居者様には表情を見ながらいつでも対応出来る様に環境を整えている。	週3回、午前と午後の入浴日を設定しているが平均週2回以上の入浴支援に取り組んでいる。入浴剤の使用や好みの温度、要望によるシャワー浴や会話をするなど入浴を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息は個人個人の自由で取れるようになってきている。軽い体操等を取り入れ、生活リズム作りに努めている。時間を決めず、個人のリズムに合わせた睡眠を取れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による居宅療養管理指導もあり、薬の情報がいつでも見られる様になっており、把握している。新しく処方された薬については申し送りを行い確認している。バイタル表を活用し症状の変化を医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いや役に立っていると思う事に喜びを感じて下さる方には、感謝しながら頼りにしている事をお伝えしている。買い物やドライブ、塗り絵、かるた等の楽しみ事の提供、歌のDVD鑑賞を取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出がお好きな利用者様は毎日でも出掛けられる様支援している。又、利用者様の希望を伺い、可能な限りドライブにも出掛けている。受診の帰りや希望時には買い物等の支援をしている。ご家族様と自由に外出できる環境も整えている。ホーム周辺の散歩には車椅子の方も一緒している。	利用者の要望に沿って、散歩や自販機での飲料水の購入に同行している。寒い時季は事業所内を歩行し、身体機能維持を図っている。家族の協力も得ながら神社に初詣やドライブ、外食、買い物等の支援に努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば、ご家族様と話し合い、所持する事を承認して頂いている。買物行事時に支払って頂く機会を作っている。自販機使用も支援している。スタッフに依頼される事が多いが、なるべく一緒できる環境を整えている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は時間に配慮し、誰でも自由に掛けられる様支援している。手紙は一部の方が実行されている。手紙を書かれる方はいらっしゃらないが、ご家族からの手紙やFAXは楽しみにされている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	見守りながら混乱や不快感がないよう、支援している。温度や音、臭いは特に気を配る様、注意し合っている。里の家便りを食堂に掲示し、季節感や生活感を感じて頂き、行事を思い出して頂いている。研修も行い、さらに居心地が良くなる様に努めている。食卓に季節の植物や飾りを置き、暖かい雰囲気作りをしている。	ユニット毎に雰囲気の違いはあるが、玄関に活けられた花や、居間に飾られた正月飾りなど季節毎の装飾品は、利用者や来訪者を和ませている。共有空間は、温湿度、採光、音、におい等に配慮があり、寛げる環境になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子を多く配置している。他入居者様から目立ちづらい場所にも椅子を設置しており、お話する様子も見られてる。日中はホールにおられる事が多く、「私の居場所」と感じて頂いている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様のご協力を頂いて、馴染みの家具や思い出の写真を用意している。利用者様のお好きな飾り物や家具も追加している。居室の模様替え等、ご家族に協力して行っている。ご自身でホームで作成した飾り物を置く方もおられる。	表札が掲げられている居室には、クローゼットが設置されている。ベットや筆筒など馴染みの物や家族写真、家族からのプレゼントの品など大切な物が置かれ、落ち着ける居場所になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新しく入居された方には灯りや目印等で居室・トイレ等、分かりやすくしている。長く入居されている方達は、迷われないが、つたえる物を増やし歩行が出来る様にしている。歩行不安定な方も二人支援にて安全に希望の場所に移動頂いている。			